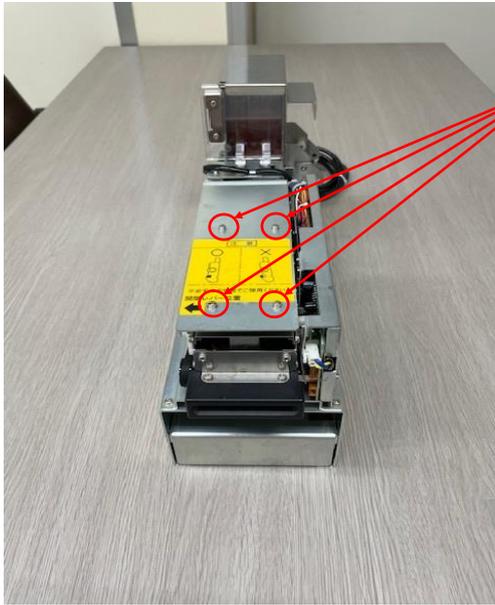


## TCE-210 の 修理可能なMCR-320(エンジン)の取外し方法

MCR-320(エンジン)が修理可能な場合は、以下の手順でMCR-320(エンジン)を取外し、ムーブサポートセンターに修理依頼お願いいたします。

### 1. MCR-320(エンジン)(RWシャーシ付)の取外し方法



1. ネジ 4本を外し、RWカバーを外す。



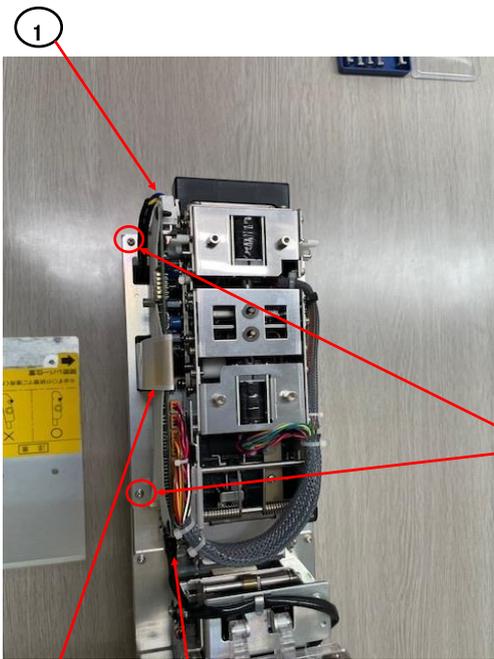
2. ネジ 3本を外し、基板カバーを外す。



RWカバー  
(紛失しない様  
にしてください。)

基板カバー  
(紛失しない様  
にしてください。)

ネジ類や  
カード回収用ユニット  
の駆動用ベルト  
(紛失しない様  
にしてください。)

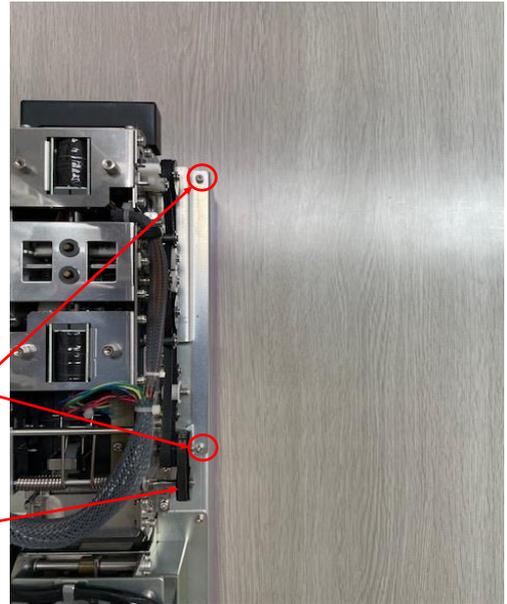


3. 制御基板のコネクタ  
3か所を外す。

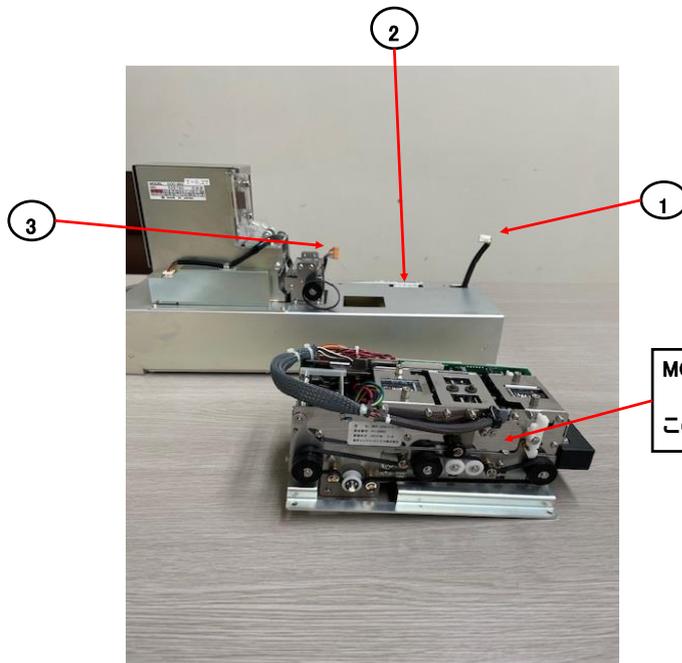
① 電源ラインケーブル  
② RS232C  
フラットケーブル  
③ カードホッパー  
制御ケーブル

4. ネジ4本を外し、  
MCR-320(エンジン)  
(RWシャーシ付)を外す。

5. 同時に、  
カード回収用ユニットの  
駆動用ベルトを外す。



① ② ③



MCR-320(エンジン) (RWシャーシ付)  
この状態で、修理依頼ください。

## 2. 修理が完了したMCR-320(エンジン)(RWシャーシ付)入荷後の作業

- (1) 項番1の 4で取り外したMCR-320(エンジン)(シャーシ付)を取付ける。
- (2) 項番1の 3で外した3本のケーブルを接続する。
- (3) 項番1の 5で外した駆動ベルトをかける。
- (4) ホッパーからのカード排出動作チェックの為にデバッグスイッチを変更する。
  - ・元々設定されていた制御基板裏面のデバッグスイッチの 1, 2, 3のON/OFF状態を記録する。
  - ・制御基板裏面のデバッグスイッチの 1, 2, 3 をONにする。(ホッパーからのカードフィードテストモード)
- (5) ホッパにテスト用カードを10枚以上セットする。
- (6) 電源をONし、正常にホッパーからカードが排出されることを確認する。
  - ・正常にホッパーからカードが排出されない場合は電源をOFFした状態で、前方のカード挿入口からカードを手動で入れて、MCR-320(エンジン)の横のベルトを回し、ホッパーとの連結部をカードがぶつからずに通るかどうかを確認する。ぶつかる場合は、搬送路が一直線になる様に、上記(1)のMCR-320(エンジン)(シャーシ付)の取付け位置の微調整を行う。
  - ・再度電源をONし、正常にホッパーからカードが排出されることを確認する。
- (7) 正常にホッパーからカードが排出されることを確認後電源をOFFし、制御基板裏面のデバッグスイッチの 1, 2, 3を元の状態に戻す。
- (8) 項番1の 2で外した基板カバーを取り付ける。
- (9) 項番1の 1で外したRWカバーを取り付ける。

これで作業は終了です。

【参考用】 ディップスイッチの説明

② MCR-320 (TCT-217、TCE-210、TCU-201)

目的	スイッチ (OFF=0、ON=1)							内 容	出荷時
	1	2	3	4	5	6	7		
通信/テスト 動作切換	0					0		通信動作	●
	1					0		テスト動作	
通信速度設定 注. 1		0	0			0		9600bps	客先仕様
		0	1			0		19200bps	
		1	0			0		38400bps	
		1	1			0		57600bps	
サーマルヘッドの 抵抗値切替え 注. 2				0	0	0		680~740Ω	機器の調整値
				0	1	0		741~800Ω	
				1	0	0		801~860Ω	
				1	1	0		861~920Ω	

[テスト動作] 電源投入時ディップ・スイッチ 1 を ON の状態で有効

目的	スイッチ OFF=0 ON=1		内 容		備考
	2	3	R/W/Pユニット	発行機	
テスト動作 内容設定 注. 1	0	0	磁気R/Wテスト (前方挿入、前方排出)	←	
	0	1	消去+印字テスト (前方挿入、前方排出)	←	<PETカード対応> 全面漢字/横縞交互 <PVCカード対応> 90度回転漢字/横縞交互
	1	0	消去テスト (前方挿入、前方排出)	←	
	1	1	追記印字テスト (前方挿入、前方排出)	フィードテスト (ホッパ排出、前方飛出)	<PETカード対応> 消去/1行漢字印字 <PVCカード対応> 90度回転漢字印字のみ

- 注. 1 [テスト動作]のディップ・スイッチ 2 と 3 はテスト動作内容指定になるため、通信ボーレートは 9600bps 固定とする。また電源投入後も変更可能となる(ディップ・スイッチ 2, 3 に限る)。  
 注. 2 [サーマルヘッドの抵抗値切替え]のディップ・スイッチは端末型式が MCR-320B 以降で端末ソフトウェアバージョンが 1.20 以降の場合、設定が無効となる。  
 (サーマルヘッドの抵抗値をフラッシュメモリにライトして対応しているため) 以上